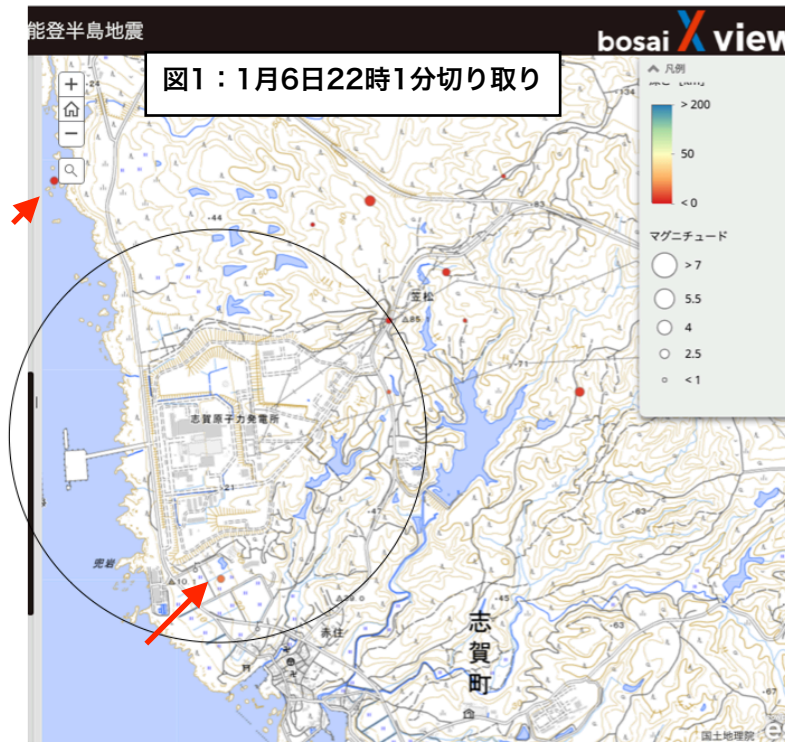


能登半島地震志賀原発に最も近い震源地が消えていたのはなぜか？

「防災クロスビュー：令和6年能登半島地震」の「震源分布」*を見、志賀原発周辺の震源地を拡大しスクリーンショットを取っていました。1月1日の大地震から5日後6日の震源地分布で原発に最も近い震源地（以下「注目震源地」）に着目していました。ところが、1月15日にその注目震源地が消えており驚きました。13日の図では消えており6日から1週間以内に消えたようです。以下、その証拠となる図、考察そして防災研への質問回答等を示します。

*国立研究開発法人防災科学技術研究所（文科省所管） 防災クロスレビューは以下です。

<https://xview.bosai.go.jp/view/index.html?appid=41a77b3dcf3846029206b86107877780>



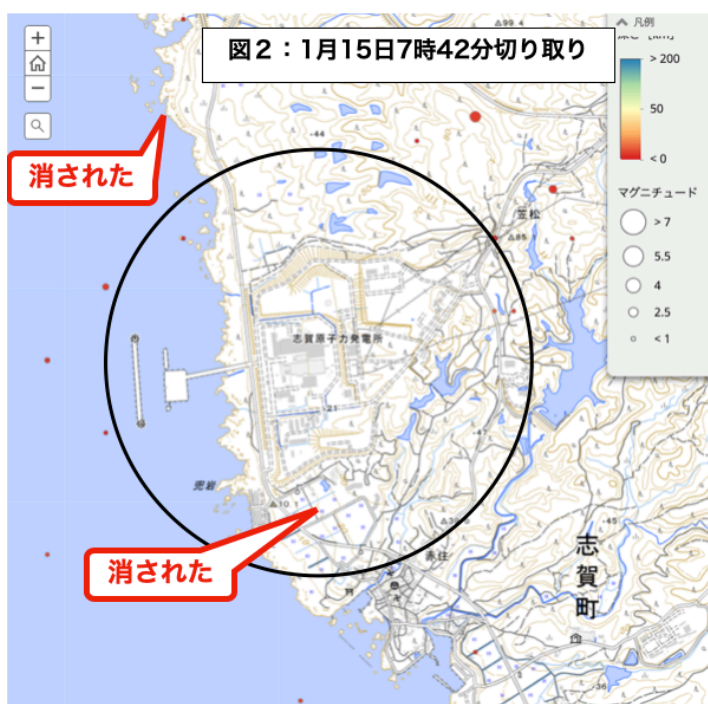
円は1号機と2号機の原子炉建屋の中間点からの距離半径1000mラインを示す

2024.1.6切取図に円、矢印を追加
注目震源地は赤い矢印の先の 赤い点です。円は1, 2号機原子炉建屋の中間点から約1000mのラインです。（上の赤矢印は後で消されていたことがわかり追加したもの）

下の注目震源地のデータは次ページの図4に出ています。
1月5日午前11時11分に起きた地震で、原発中心から約630m敷地境界から約180mほどの地点です。

マグニチュード2.0
深さ 16.7km です。

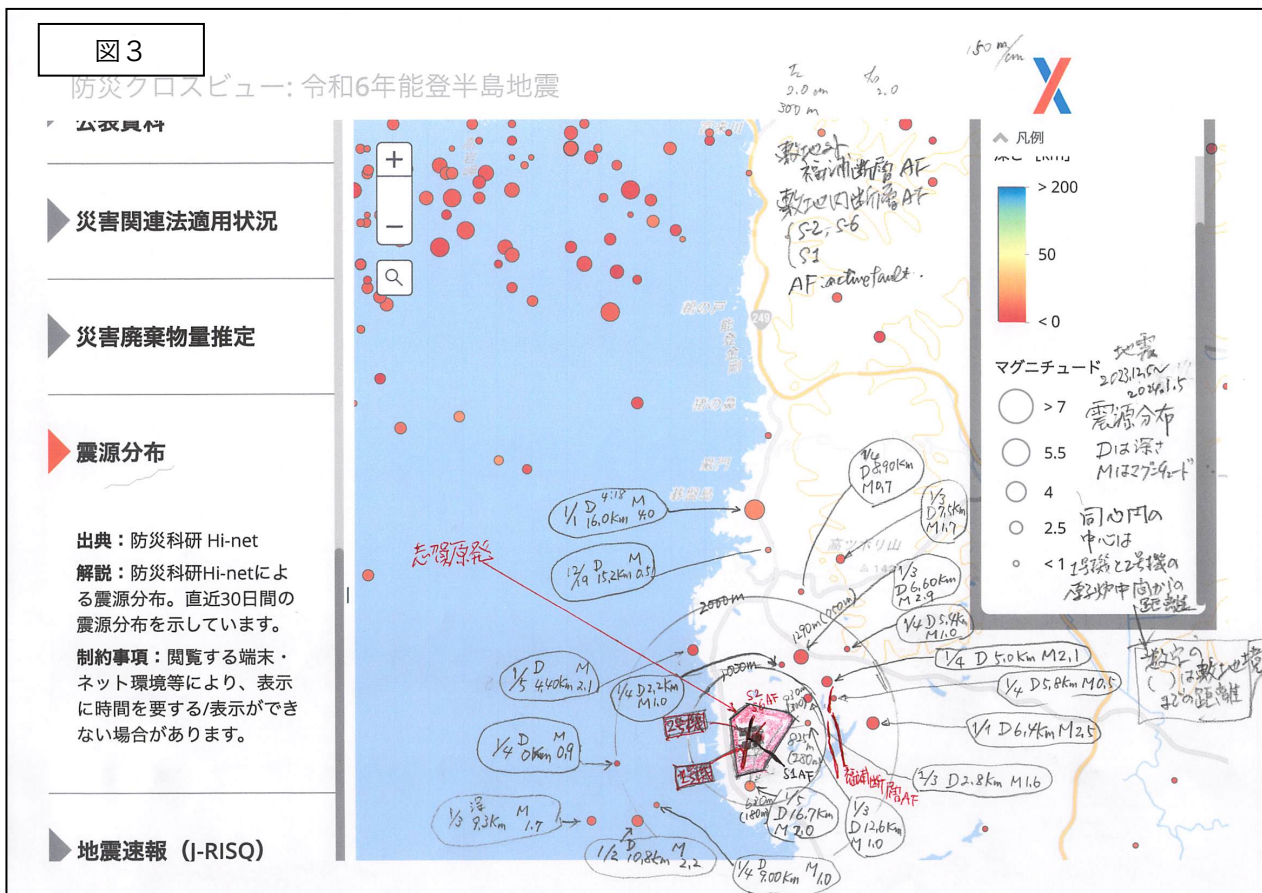
上矢印の注目震源地のデータは
マグニチュード 2.1
深さ 4.4 km
敷地境界北北西約1.1 km
1月5日発生です。



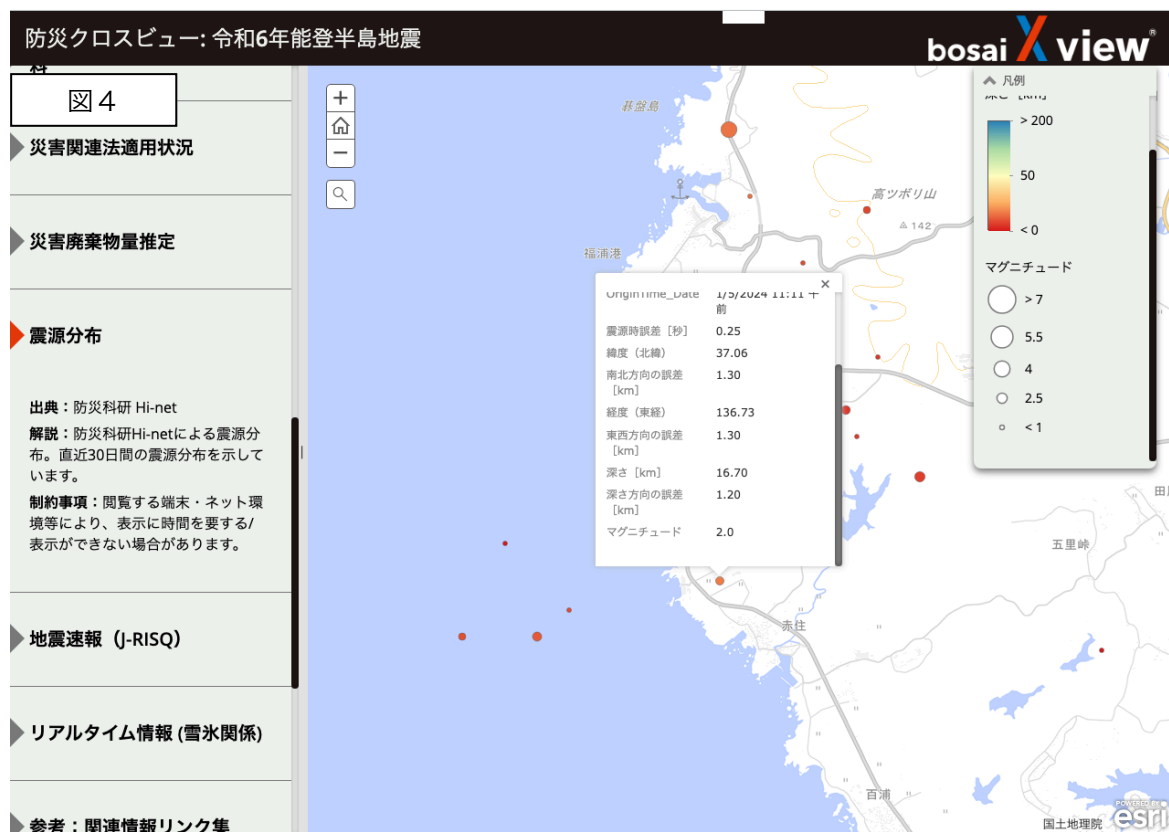
2024.1.15切取図、消された震源
図1の原発に最も近い注目震源地は1月15日のクロスビューの図から消えていました。（上の矢印震源も同様消えていました。後でわかりました。）
1月5日から15日までの間に発生した地震の震源地が増えるのはわかりますが、消えたのはなぜでしょうか。
*クロスビューの震源は30日後消されます。

図3, 図4に1月6日のメモと上記震源地のデータ図を示します。この時点では確かに注目震源地はあったのです。

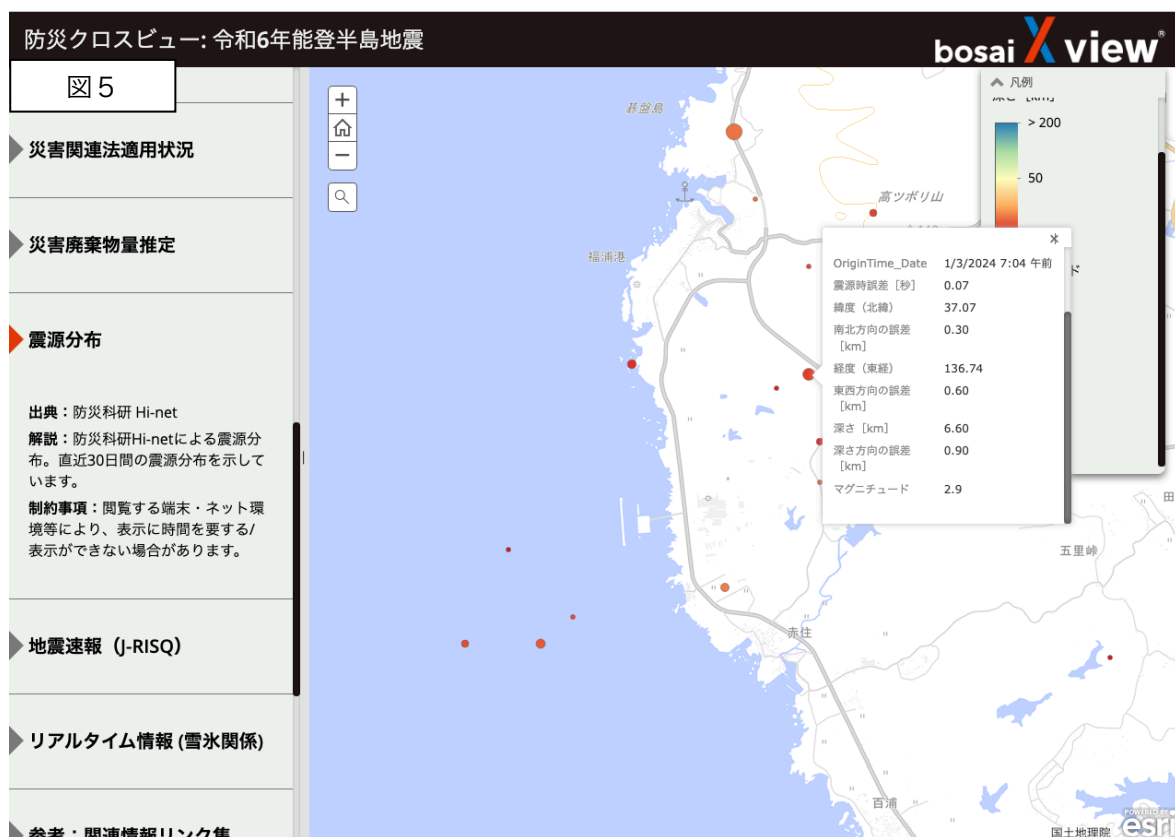
1月6日の原発周辺震源データメモ 私達のMLに7日お知らせしていたもの、注目2震源地も出てます。



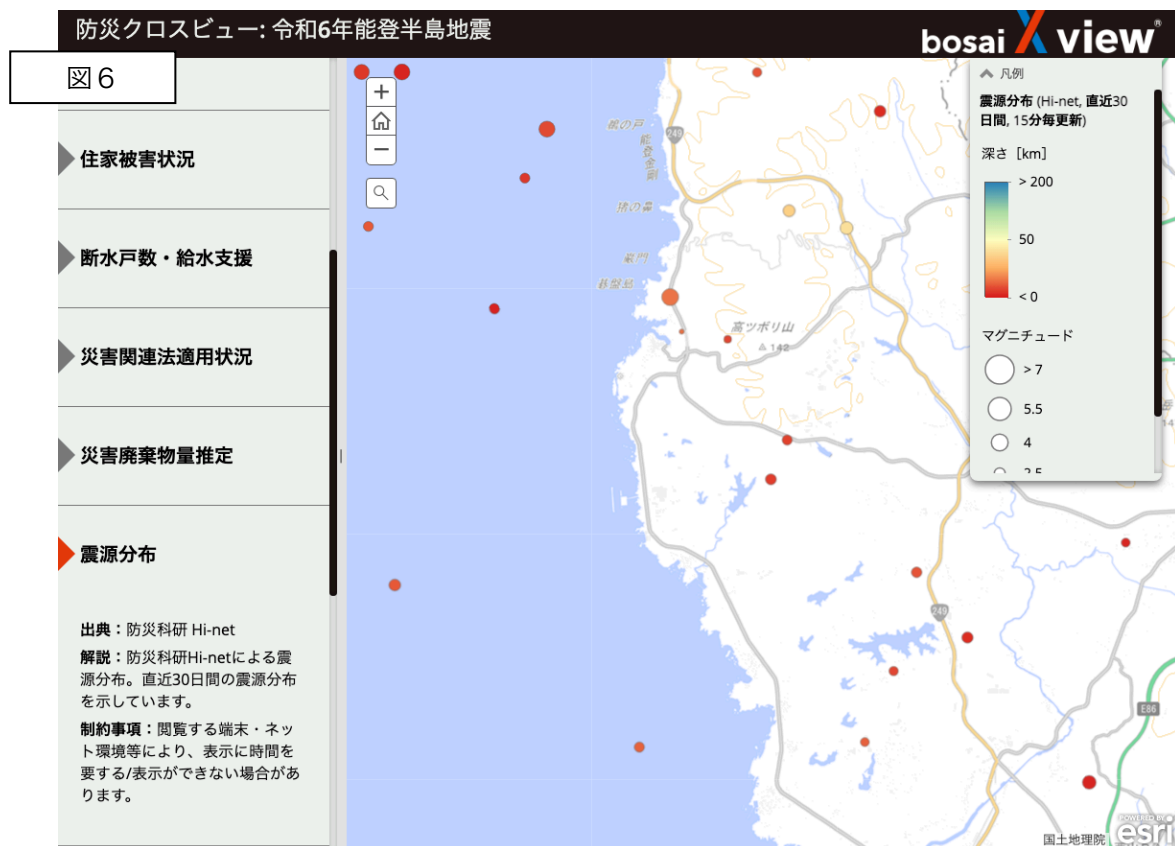
上記メモのデータは震源の赤丸印をクリックすると出てきます。図4は注目震源地の情報です。
情報の上半分が切れていますが地震発生日時は 2024年1月5日 午前11:11になっています。



1月6日調べた際のその他の震源データの例です。1月3日午前7：04に深さ6.4kmで発生した地震です。原発は海に飛び出た一文字防波堤の内陸にあります。注目震源地は2つとも出ています。

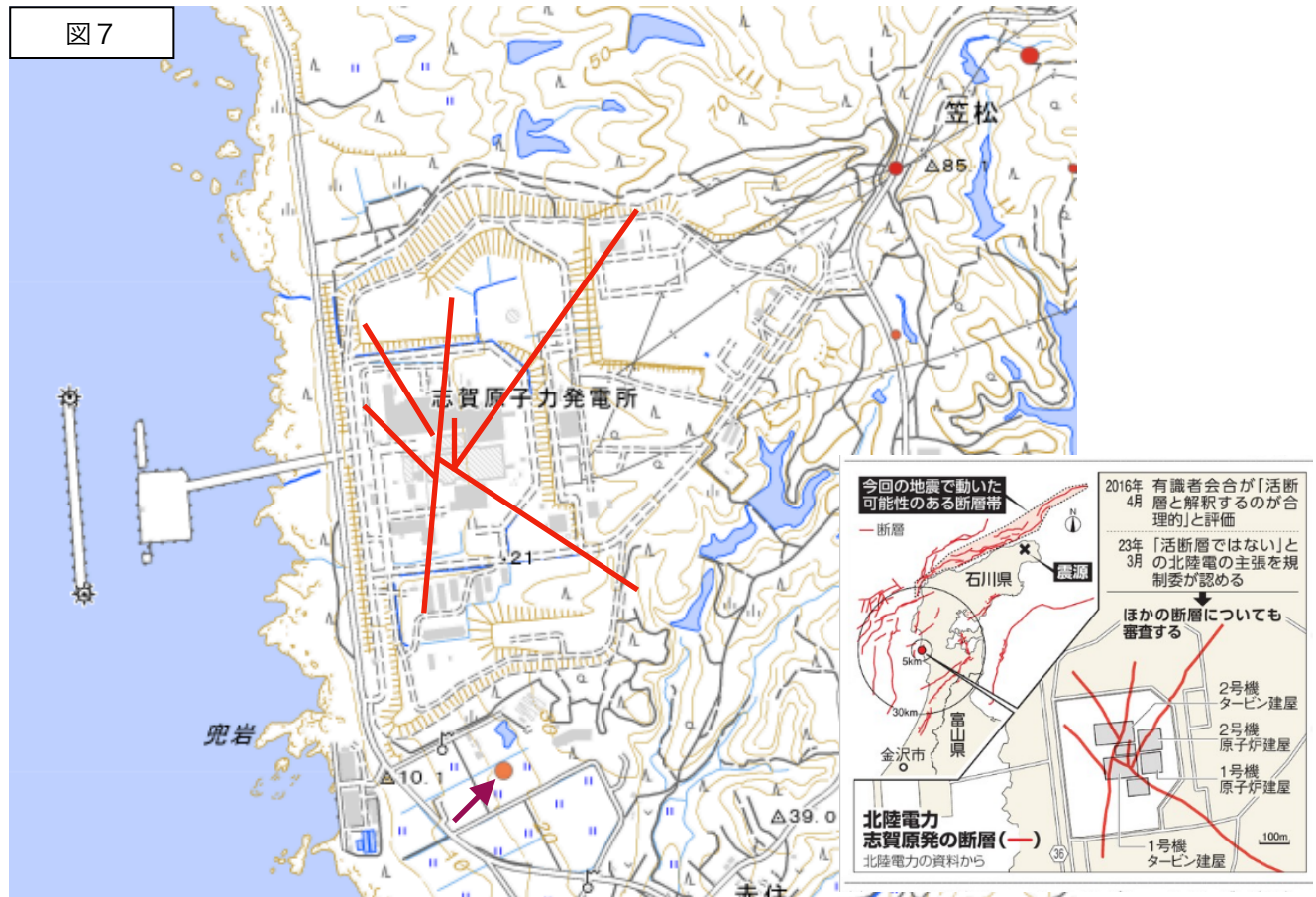


下図は1月3日 21：20のスクリーンショットです。この時点では当然のことながら注目2震源地の地震はまだ起こっておらず出ていません。(スクリーンショットの表示：2024-01-03 21.20.42)



◎ 1月5日午前11時11分に発生した地震震源地の記録は翌日の6日22:01にはまだ消えていませんでした。1月13日16:14には消えていました。この間に消されたようです。

考察1: 1月6日のクロスビューの志賀原発周辺を拡大した図に朝日新聞掲載断層(右下図)を書き込んでみました。



志賀原発敷地を南北に走る審査対象のS-2・S-6断層の延長方向に近接し注目震源地があることがわかりました。

考察2: 震源分布図に福浦断層を書き込んで見ました。(図8)

北陸電力の資料*により、志賀原発の東側約1kmのところに福浦活断層(3.2km)、西側約2.5kmの海底に兜岩活断層(4.0km)があることがわかりました。

* 志賀原子力発電所2号炉敷地周辺の地質・地質構造について

2023年10月6日 北陸電力(株) 390頁の図を使用

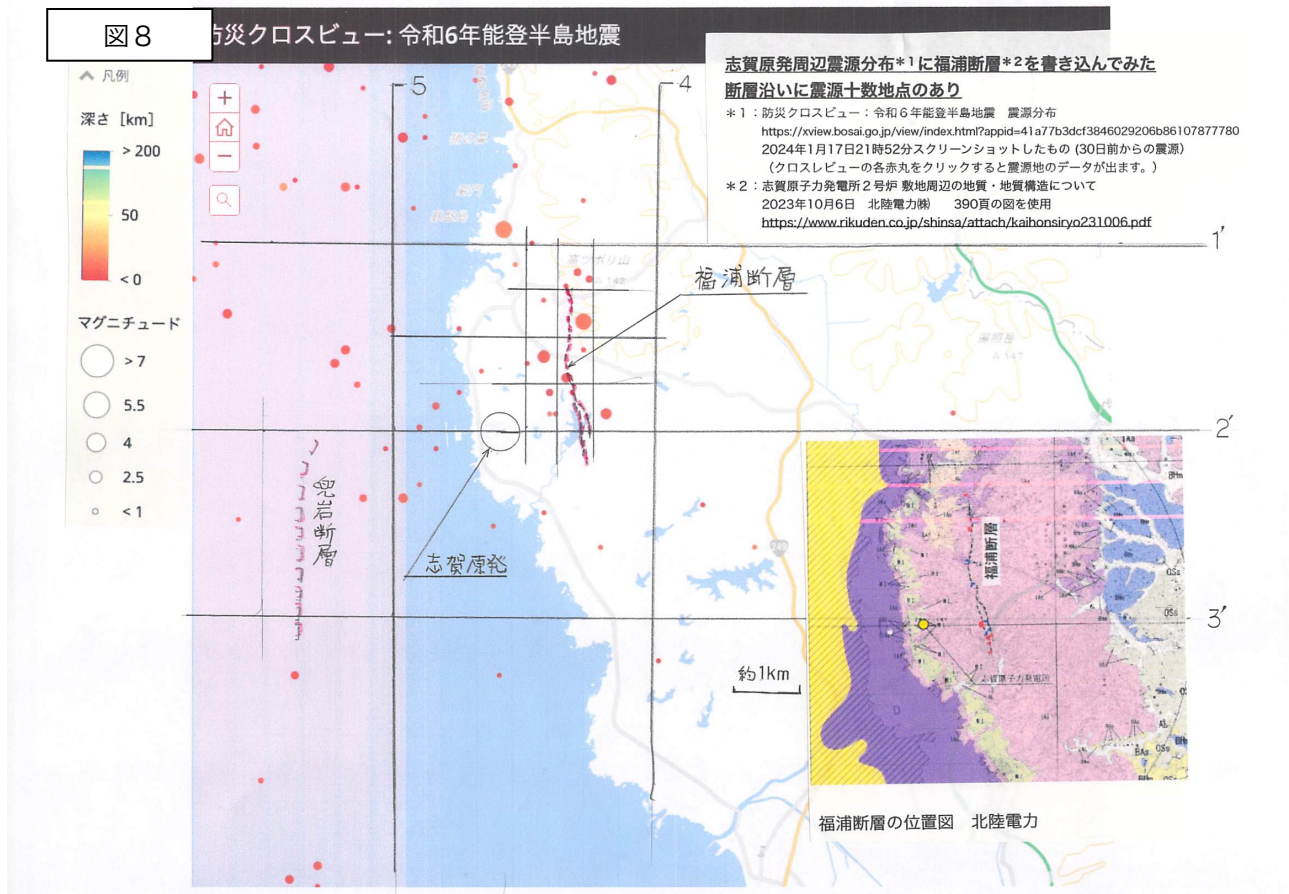
<https://www.rikuden.co.jp/shinsa/attach/kaihonsiryo231006.pdf>

防災クロスビュー: 令和6年能登半島地震 震源分布

2024年1月17日21時52分スクリーンショットしたもの(30日前からの震源地)に福浦活断層を書き込んでみました。断層沿いに震源が十数地点が存在していたことがわかりました。

また、志賀原発の近距離3km以内にかなりの震源地が発生していたことがわかりました。

図8には、図1にある消された2つの震源地は当然出ていない。このことは、自然現象まで手を加え消していることであり考えられない好意です。他にも消された震源地がある可能性があります。これは防災クロスレビューを実施している防災科学技術研究所に問合せ確認しなければならないと考えました。(後述) 兜岩活断層の周辺には震源地の集中がなかった。



◎ 防災科学技術研究所総合防災情報センター担当者へ問い合わせた<toiawase1@bosai.go.jp>

問い合わせ文面: 1月22日メール

「防災クロスビュー: 令和6年能登半島地震」の画面の震源分布についてお尋ねします。

1月6日20時59分に見た志賀町の図に1月5日午前11時11分に発生した下記地震の震源地が赤丸で出ていました。(志賀原発敷地の南200mほどのようです)

北緯37.06度 東経136.73度 深さ16.7km マグニチュード 2.0
 ところが1月15日午前7時42分に見た志賀町の図ではこれが削除されていました。

以上について消えた理由や日時等をお知らせお願いします。」

回答: 担当の研究者に確認したところ、以下の回答をもらいました。1月24日受領(理由答えず)

「消えた理由につきましては、弊所の地震観測網

地震津波火山ネットワークセンター ([bosai.go.jp](https://www.bosai.go.jp)) <<https://www.mowlas.bosai.go.jp/network/>> のうち Hi-netで観測し震源決定しているのですが、

1. Hi-net地震観測システムによる 自動処理結果(前日・当日)
2. 気象庁一元化震源要素(2日後)

のような形で2段階になっております。1から2に変わったためと考えられます。

2回めの問い合わせ文面: 1月25日 回答メールに返信する形で提出

「お答えの2段階になったためとのことですが、震源地のデータは一元化震源要素の位取りなど基準を満たしているように思われました。

2段階で、震源地データの信頼性などを検討されておられるのはよくわかります。条件により修正することはあるとは思いますが、Hi-netで精密に検出された震源地がなぜ修正ではなく削除されたのでしょうか。この他にも削除された地点はあるのでしょうか。ご多忙のところ恐縮です。削除された理由やできましたならその検討会名等をご説明お願いできますならば幸いです。

回答: なし (1週間以上経過した、2月5日現在回答なし)

まとめ

- 志賀原発敷地の南約180mにある地点で1月5日午前11時11分地震があり震源地の深さ16.7km、マグニチュード2.0でした。また敷地北北西約1100mの地点で1月5日発生した地震震源の深さ4.4km、マグニチュード2.1でした。防災クロスビューの図において、この2つの震源が1月6日～13日の間に消されていました。
- 震源が消された理由について防災クロスビューを運営している防災科学技術研究所に問い合わせたが、消した理由は答えず、審査手続きについて答えがありました。答えからこれらの震源データはHi-net（高感度加速網）による現在最も精密な観測による震源を決定しているとのこと。その精密に測定された記録がなぜ消されたのかその理由を再度問い合わせましたが、10日以上経過した現在まだ回答がないことは回答できない理由があるものと推量しています。
＊その理由は志賀原発直下の地震であり原発関係機関から何らかの圧力があったのではないのでしょうか。自然科学の観測結果を理由も言わず削除することは地震科学を歪め、防災上許されない行為と思われる。
- 南側の消された注目震源地は最も原発敷地に近接しており、審査対象敷地内断層の延長近くの地震であることがわかります。原発周辺にある多数の震源の中で深度16.7kmと最も深い震源であり敷地内断層との関係はあるように思えません（末尾添付図参照）が、ほぼ敷地直下での地震であることは間違いありません。
- 能登半島地震により、原発においても被害が出ており、原発敷地内活断層との因果関係について再審査される方向性が出たようでありこの2つの震源の存在は規制審査上不都合であり、文科省を通し、防災科学技術研究所に消去をするように働きかけがあり削除が実施されたものでしょうか。今後、質問主意書や国会での質問をお願いし確認していかなければならないと思っています。
- 全国の原発サイト周辺で発生した地震の震源についても今回と同様、不都合な震源地を消している可能性があるのではないのでしょうか。

この防災クロスビューの震源分布図の掲載震源は30日後に消去されます。現在1月1日の能登半島地震は見ることはできません。そのため事実をメモ的ですが公開し保存しておくことにしたものです。このまとめについて、脱原発全国ネットno-moxのみなさんから励ましや、貴重な資料を提供いただきまだなんとかまとめることができ、感謝いたしております。

2024.2.5

三陸の海を放射能から守る岩手の会（まとめ永田）

追加末尾添付（参考）

「志賀原発と周辺二活断層、その間の震源地と深度とマグニチュード図」

2024.1.17午後9時現在の防災クロスビュー令和6年能登半島地震震源分布図を元に作成

2つの活断層に囲まれた志賀原発である。震源は深さ0m～16.7kmの範囲に散らばり、活断層との関係など規則性を見出すことはできなかった。

志賀原発と周辺二活断層、その間の震源地と深度とマグニチュード図 2024.1.17午後21時（30日前から発生の震源）現

